

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400340
法人名	社会福祉法人 米沢弘和会
事業所名	サンプラザ米沢グループホーム「さんさん」
訪問調査日	平成 20年 8月 26日
評価確定日	平成 20年 9月 12日
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	670400340
法人名	社会福祉法人 米沢弘和会
事業所名	サンプラザ米沢グループホーム「さんさん」
所在地 (電話番号)	米沢市大字築沢3470番地 (電話) 0238-32-2282

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町4-3-10		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(20年 7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,500 円	その他の経費(月額)	250円/日	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三友堂病院 平井医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上杉藩の奥座敷小野川温泉の近くに所在し、春は新緑、秋は紅葉と季節感あふれる地域である。法人の敷地には老人保健施設等が隣接しその連携はいろいろな面で取り組まれている。法人の理念を実践するため、運営方針、行動目標等を毎年作成し職員が共有し実践している。地域との関係については行事への参加や共催など取組まれ、近隣の小学校との関係も行事への参加や生徒の立寄りなど良好な関係である。近所の住民の理解もあり、時には近所の方も一緒に散歩してくれるほどである。一般住宅を利用しているが、外観よりは整然とし広々とした感があり、トイレも3箇所と十分なスペースがある。大きめな窓や外部のオープンデッキなどにより開放的な雰囲気がある。玄関前の広場にはベンチがおり、「地域に開かれた」感じがする事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の改善事項として、市町村との連携の項目に関しては、改善事項を市町村と協議し派遣職員2名(介護相談員)の訪問の受入を行うこととなり現状把握と情報交換として取り組んでいる。金銭管理の報告に関しては、金銭管理簿に面会時各々サインを頂くこととし、改善している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価は、職員全員で話し合い管理者がまとめて行っている。前回の外部評価の指摘事項についても、会議等で話し合い改善に向け努力している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回の開催で、地区住民代表、市職員、利用者家族で構成され、特に家族は全員に案内を出し、毎回4人から6人の出席者がある。自己評価・外部評価の報告や、ホームの状況説明、家族の意見等話し合いがなされている。会議中の意見等は、職員会議やショートカンファレンス等で再検討しサービスに生かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族の出席も多数あり、その都度ご意見を頂いている。また日々の記録にもご意見などを記録し対応している。苦情窓口の掲示、意見箱の設置や、便りによる意見要望等の呼びかけなど積極的に取組んでいる。苦情等については速やかに対応し、法人内の苦情報告委員会で報告し改善に向け取組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組に加入し、地区の総会等では活動報告を行い、地区秋祭りを合同で開催、収穫祭等行事に参加している。近くの小学校とは行事に参加したり、生徒が立ち寄るような関係でもある。職員とともに近所の方も一緒に散歩する姿もあった。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念として一人ひとりの命を尊重しやすらぎのある人生が送れるよう支えあうを理念として掲げており、その達成のために地域密着型サービス事業所として独自の「運営方針、行動目標」を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念の実現のために昨年の反省を基に「運営方針、行動目標等」を話し合いの中から作成している。また、理念を事業所内に掲示し、朝礼や会議等で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、地区の総会等では活動報告を行い、地区秋祭りを合同で開催、収穫祭等行事に参加している。近くの小学校とは行事に参加したり、生徒が立ち寄りするような関係でもある。職員とともに近所の方も一緒に散歩する姿もあった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、職員全員で話し合い管理者がまとめを行っている。前回の外部評価の改善課題についても、会議等で話し合い改善に向け努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の開催で、地区住民代表、市職員、利用者家族で構成され、特に家族は全員に案内を出し、毎回4人から6人の出席者がある。自己評価・外部評価の報告や、ホームの状況説明、家族の意見等話し合いがなされている。会議の中の意見等は、職員会議やショートカンファレンス等で再検討しサービスに生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、市町村担当者と協議し、毎月1回、市から派遣職員2名(介護相談員)を受け入れることとし、現状把握と情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の外部評価で金銭管理の報告について指摘があった。これを受け少額の管理であっても、収支については面会時等確認のサインを頂くようにした。面会時や便りにより、職員の異動や状況報告を行い、受診・往診時は電話等でその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の出席も多数あり、その都度意見を載している。また日々の記録にもご意見などを記録し対応している。苦情窓口の掲示、意見箱の設置や、便りによる意見要望等の呼びかけなど積極的に取り組んでいる。苦情等については速やかに対応し、法人内の苦情報告委員会で報告し改善に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動はあるが、スムーズに移行できるよう、申し送りを丹念に行うとともに、引継ぎ期間は2週間としダメージを防ぐ配慮をしている。また、異動職員は認知症の研修を受講しておりその点でも配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に従い法人内の研修や外部研修に参加し、スキルごとの研修を行っている。職員会議等で外部研修についての発表を行いサービスの質の向上を図っている。法人による資格取得のための自主学習会へ参加も推進している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県のグループホーム協議会の会員になり、研修会や職員交換研修会等に参加している。また、置賜地区グループホーム連絡協議会に管理者は2ヶ月に1回、一般職員は年3回程度参加し、同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを職員が共有しており、人間関係のあり方や料理の味付などアドバイスを戴いたり、ともに支えあう関係を築いている。また、旅行等の行事は、利用者だけでなく職員も一緒に楽しみを共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の会話の中で希望意向を把握し、毎週行われる処遇検討会などで話し合い、記録し、申送ることで職員全体で共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見要望を基に、利用者ごとの週1回の処遇検討会等の職員による話し合いの中、意見やアイデアを出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月又は6ヶ月毎に介護計画を作成し、処遇検討会やケアプラン会議の場で、全体的な評価を行い見直しを行っている。全体的なモニタリング等は行ってはいるが、介護計画に沿った遂行状況、効果などの評価については工夫を要する。	○	ケアプランの項目に沿ってモニタリングを行うとともに、見直しの必要項目が明らかになるような記録についての工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居時等に本人・家族等と話し合いかかりつけ医について決めている。近所の協力医療機関については、24時間対応の体制をとっている。場合によっては、隣接の同法人の老人保険施設の医師との連携もある。協力医療機関以外のかかりつけ医については、家族の協力を得るとともに状況に応じて通院の支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入所時から重度化や終末期に向けた方針について、本人、家族等と話し合い、また状況に応じ、繰り返しの話し合いを行い、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者にあわせ、羞恥心への配慮が必要な場合は、さりげない声かけによる誘導により対応するようにしている。個人情報の管理については、法人のマニュアルを基に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	行動目標には「一人ひとりのペースに合わせた自己決定の尊重」を掲げ、基本的に日課は決めていない。入所前の生活習慣、日々の観察や処遇検討会等を通じ、利用者のペースを把握し、利用者自身が自己決定できるような声かけにより、利用者本位の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者も同行し、また、畑からの収穫を利用者と行い献立を話し合うなど、コミュニケーションを図っている。また、利用者は楽しそうに調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は行っていないが、日中は午前午後とも利用者の希望に合わせて入浴している。また、入浴を望まれない方は、時間の変更や声かけの工夫など臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント等により生活歴や楽しみごと等の把握を行うとともに、日々の余暇活動などの生活を観察することにより、新たな発見もありその人にあつた役割、活動の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	散歩などは天候や利用者の状況に応じて、職員と、時には近所の人と一緒に歩いている。近所のスーパーへの買い物・畑仕事や外食・ドライブ・小野川温泉の足湯・法人の近隣施設の行事の参加など外出支援を行っている。入り口にはベンチが置いてあり、外出前の一休みの光景があつた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	夜間以外は施錠は行わない方針である。玄関にはセンサーを付け、外出の把握が出来るよう対応している。また利用者一人ひとりの傾向の把握も出来ている。系列事業所の職員の協力、地域住民の協力、駐在所との連携もあり、安全に過ごせる工夫がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練は年2回行い、夜間を想定した緊急連絡訓練なども行われている。また職員は災害時の役割分担を受け持ち利用者が安全に避難できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、管理栄養士が作成した献立を基に実施している。利用者ごとの記録に摂取量を記録し支援している。水分摂取については、適切な水分量が確保できるよう食事やお茶飲みなどの支援は行われているが、記録としては未整備である。	○	利用者ごとの記録の中で水分摂取量が分かるような記録の整備を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改造した施設であり、家庭的な構造を残し、居間食堂には茶だんすやテーブルと座卓を配し、食器を洗う音、調理の際の匂い、心地よい音楽など生活観を取り入れ、個人で作成した作品などを飾り、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には使い慣れたもの好みのものの持込は自由である。利用者の意向に配慮し、柔軟に対応している。		